# 伊賀市環境基本計画 年次報告書

一令和5年度版一

~ いまがんばれば未来が変わる!! 芭蕉も愛した伊賀の国! ~ 「豊かな恵みのなかで、人と自然が共生するまち伊賀」

伊 賀 市

#### 目次

#### 第1章 はじめに

- 1 プランの基本的事項
- 2 進行管理シート各指標の達成状況

#### 第2章 資料編

- ◎地球環境・・気候変動への対応等による地球環境の保全
  - 1 温室効果ガスの排出抑制
    - 本市の温室効果ガスの排出量合計(千 t-CO2)
  - 2 再生可能エネルギーの推進
    - 伊賀市太陽光発電設備設置に関する指導要綱の届出推移(件)
- ◎資源循環・・持続可能な資源循環の推進
  - 3 ごみの排出抑制
    - ごみの総排出量の推移(t/年)
- ◎豊かな自然・・豊かな自然と生物多様性の保全
  - 4 伊賀市まちづくりアンケート
    - ・満足度「豊かな自然環境が守られ時代へ引き継いでいる」(%)
  - 5 農地の保全
    - 伊賀米の生産量の推移(袋)
- ◎生活環境・・安心・安全に暮らせる生活環境の確保
  - 6 河川水の環境基準達成率
    - ・調査地点7か所における達成地点数、達成率(%)
  - 7 事業所等への指導・監視の強化
    - 騒音に係る監視 測定結果 (dB)
  - 8 健全な水循環の維持
    - ・事業所における地下水の取水量の推移(m)
- ◎文化環境・・歴史・文化をくらしに活かす文化環境の確保
  - 9 伊賀市まちづくりアンケート
    - ・満足度「歴史・文化遺産を守り、みらいへと引き継いでいる」(%)

# 第1章 はじめに

#### 1 基本的事項

伊賀市(以下「本市」)では、これまで「伊賀市環境基本計画」(2007 (平成19)年度 2015 (平成27)年度)(以下「前計画」)を策定し、本市の良好な環境維持に取り組んできました。

しかし、近年、新たに地球規模レベルで、地球温暖化による異常気象の発生、マイクロプラスチックによる海洋汚染などの環境 問題が顕在化してきました。

さらに、これらの環境問題に対応するための人材を、継続的に養成していくことも重要な 課題となっています。

本市においても、最近、地球温暖化により、平均気温の上昇、真夏日や猛暑日の増加、真 冬日の減少などがみられるようになりました。地球温暖化は、私たちの生活様式や生態系へ の影響などが想定されており、このまま温室効果ガスの排出量を削減しなければ、本市で も、高温による熱中症の発症頻度の増加や、この地方のブランドである伊賀米などの農作物 への影響が懸念されます。

これら新たな環境問題に対応することや、現状良好である大気、水環境、騒音・振動などの環境を維持していくために、本市では、今回「伊賀市環境基本計画」 2023 (令和 5) 年度 2030 (令和 12年度)) (以下「本計画」)を新たに策定し取り組んでいくこととしました。

2030(令和12 年)度の達成を目指し、可能な限りの数値目標を明示した『進行管理シート』を基に、諸施策の進捗状況を把握してまいります。

なお、世界・国での環境を取り巻く状況は常に変化することが予想されることから、状況 に応じ実施状況や目標達成状況をもとに全体的な見直しを行っていきます。

## 望ましい環境像と実践すべき環境行動

国の環境基本計画には「私たち日本人は、豊かな恵みをもたらす一方で、時として荒々しい脅威となる自然と対立するのではなく、自然に対する畏敬の念を持ち、自然に順応し、自然と共存する知恵や自然観を培ってきた。」とあります。そして、このような伝統も踏まえ、最新の科学技術も最大限に活用しながら、環境政策を通じ「持続可能な社会」を構築していく「未来志向の捉え方」が必要であるとしています。

本市は、俳聖松尾芭蕉の生誕の地として知られています。芭蕉の俳諧の理念である「不易流行」とは、「変わらないものの中に新しい変化を取り入れていくこと」とされていますが、先人から引き継いだかけがえのない地域の特色豊かな環境を、現代の私たちの知恵と努力で未来につなぐため今こそ頑張る時だと考え、「望ましい環境像」と「6つの基本目標」を設定しました。



# 2 進行管理シート各指標の達成状況

# 【基本目標1 地球環境】

施		4-46	# 14 M of 1 a	la sicre m ic	中間達成目標	原状値	数值指	標(上段:目	標/下段:	実績)
策 No.		施策	各施策内容	担当所属等	(事業及び数値指標の概要) (2023~2026)	年度/実績	2023	2024	2025	2026
	基本目		の基本体により地や電路の個人							
-	基基	太(大) 温室刻√	の対応等による地球環境の保全 限ガス削減	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			v	V	Ţ	Į.
1		施策1	国、県の計画に沿って、2030 (合和12) 年度に、温室効果ガスを 2013 (平成25) 年度比で46%削減するという目標を造成できるよ う、本市においても市民・市民団体・地域・事業者・行政が一体 となり取り組みます。	生活環境課	地域脱炭素の推進のため、エネルギーの地産地消を 含む地域内の地球温暖化対策の仕組みづくりに向け た官民連携の仕組みをつくります。 指標:民間事業者との勉強会の開催回数(参加事業	2022	1 (1)	2 (2)	3 (3)	3 (5)
2			市は、「伊賀市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)」で策定	生活環境課	者数)  地球温暖化対策実行計画(事務事業編)におけるCO: 削減目標を▲26%から▲46%に改正し、CO:削減を推	2022	10, 955	10, 847	10,740	10, 633
2			した事務事業に取り組みます。	工作來先味	進します。 指標:伊賀市役所のCO:排出量 (t-CO:)	11, 062	6, 470			
3			地球環境問題や市の施策について、市のホームページや広報を通 じ情報を共有し啓発を行います。	生活環境課	地球環境問題や市の施策について、伊賀市の広報誌 に掲載し環境保全意識の啓発を図ります。 指標:年度内の広報誌への啓発記事の掲載回数	2022	1	1	2	2
$\vdash$		施策 2 再生可能エネルギーの推			(回) 再生可能エネルギーに係る施策について、伊賀市 ホームページ等に掲載し再生可能エネルギーの普及	2022	1	1	2	2
4		加	再生可能エネルギーの普及を図るよう啓発を行います。	生活環境課	を図ります。 指標:年度内の施策に関する普及記事の掲載回数 (回)	0	0			
						2022	未設定	5	6	7
5			公共施設での再生可能エネルギー導入推進に努めます。	生活環境課	民間提案制度による公共施設への再エネ導入事業の 採用件数(件)	0	4			
6			自家用車の利用機会を減らし、公共交通機関の利用促進に係る啓 発を行います。	交通戦略課	啓発等により公共交通機関の利用を増加させます。 指標:伊賀線四十九駅の年間乗車人員数(1月~12	2022	35, 000	37, 000	39,000	41,000
Ш			200-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-		月迄の合計)(人)	32, 866	37, 732			
7			エコカー (電気自動車等) の利用や、エコドライブの推進に努め ます。	管財課	本庁舎において電気自動車6台保有し、充電設備を 整備します。 指標:EV車両導入台数(台)	2022	3	4	5	6
					業務効率化・自動化を図るため、AIやRPA等の	2022	9, 185	18, 375	36, 750	45, 937
8		施策 4	DX(Digital Transformation)、IT(Information Technology)、 IOTなど(以下「DXなど」)を積極的に活用し、組織の業務等の 効率化を図ります。	デジタル自治推進局	の更なる活用を推進します。 指標:AIやRPA等の導入により削減した年間労 働時間数をKPIとし設定する。(時間)	0	573	10,010	30, 100	10, 501
q		情報通信技術等を活用し た持続可能なまちづくり の推進	第一次産業のIT化を推進し、農作業の省力化・効率化に取り組	th II is on an	農作業の省力化・効率化を進めます。	2022	4	5	6	7
9			みます。	農林振興課	指標:農作業の省力化・効率化に取り組む集落営農 組織数(集落)	3	0			
	基本	施策 (2) 気候変動への適	芯							
10		施策 1 防災対策の維持		道路河川課	河川内の堆積土や樹木を除去し、河川環境の保全を 図ります。	2022	78	100	-	-
Ц			豪雨災害等に備え、河川や山林の適正維持に努めます。		指標: (浚渫完了箇所/浚渫予定箇所) (%)	53	78			
10				農林振興課	流域防災機能強化対策事業等を進めます。 指標:流域防災機能強化対策事業による間伐面積 (ha)	2022	135	135	135	135
$\vdash$					地球温暖化に伴う異常気象等の生活への影響につい	118. 7	97. 05			
11			地球温暖化に伴う台風の大型化等、気候変動に係る最新情報の発 信に努めます。	生活環境課	て周知・啓発を行う事で、気候変動への適応を促進 します。 指標: 年度内の地球温暖化に伴う気候変動に係る講	2022	1	1	1	1
					演会等の動画の公開件数(件)					

# 【基本目標2 資源循環】

施					中間達成目標	原状値	数值指	原(上段:目	標/下段:	実績)
策 No.		施策	各施策内容	担当所属等	(事業及び数値指標の概要) (2023~2026)	年度/実績	2023	2024	2025	2026
基	本目		and the second second							
	北方	持続可能な資源 体施策 (1) ごみ減								
	26.71	施策 1			ing A de (   A) we a with the (considerate) and considerate	2022	28	31	34	38
12		ごみの排出抑制	「生ごみ処理容器」を保有していない方へ助成金制度を周知する ことで、購入・利用の促進を図り、ごみの減量化を図ります。	さくらリサイクルセ ンター	補助金交付件数を現状値(2022年度)の50%増を目標とします。 指標:補助金交付件数(件)	25	53	01	0.	
13			ごみの減容化の方法やごみの発生の少ない商品に関する情報提供	廃棄物対策課 さくらリサイクルセ	市広報及び行政情報チャンネルなどを活用し、ごみ の減容化やごみ発生の少ない商品についての情報提 供を行います。	2022	1	1	1	1
1.0			を行います。	ンター	供を行います。 指標:情報提供回数(回)	1	4			
14				農林振興課	食品ロス削減の意識向上について状況把握に努める ため、食育に関連する意識調査 (アンケート)を年 1回実施し、そこに食品ロスに関する設問を加えま	2022	初回	2023年度 調査+5%	2024年度 調査+5%	2025年度 調査+5%
14				De Truc 94 av	す。 指標:アンケート回答率(%)	未実施	26			
			食べ物を必要以上に作りすぎることの無いよう等、啓発等に努	for CT off	市役所本庁玄関ホールで来庁者に向けてバネル展を	2022	1	1	1	1
14			め、家庭系、事業系の食品ロスの削減に努めます。	住民課	実施するなど、食品ロス削減の啓発を行います。 指標:啓発バネル展実施回数(回)	0	1			
					市広報へ記事を掲載し、食品ロス削減の啓発を行い	2022	1	1	1	1
14				廃棄物対策課	ます。 指標:広報いが掲載回数(回)	1	1			
					自治協や自治会による地域内の情報共有におけるI CT活用状況を調査するためアンケート調査を行	2022	未設定	20	25	30
15			回覧板などのベーバーレス化を促進します。	生活環境課	い、地域内情報共有手段のデジタル化の状況を把握 します。 指標: I C T活用率 (%)	未実施	15			
	基本	施策(2)リサイクルの推	進	•						
16		施策 1 リサイクルの促進	4R (リフューズ (断る)・リデュース (減らす)・リユース (再使用)・リサイクル (再管履化)) 活動のさらなる権進を図ります。	生活環境課	4 R 推進のための啓発等を行い、可燃性ごみに混入 することが多い容器包装プラスチック、PETボトルの 伊賀北部地域の資源化量(柱民1人あたり)を2021 年度比5%増を目標とします。	2021	3. 45	3. 48	3. 52	3, 55
					指標:容器包装プラスチック、PETボトルの伊賀北部 地域の資源化量(住民1人あたり) (kg)	3. 38	3.96			
17			現在使用している「ごみ収集分別表」や「ごみ分別アプリ」の記 載内容を改訂し、さらにわかりやすくすることでごみ分別、資源	さくらリサイクルセンター	可燃性ごみに混入することが多い容器包装プラス チック、PETボトルの伊賀北部地域の資源化量(住民 1人あたり)を2021年度比5%増を目標とします。	2021	3. 45	3. 48	3.52	3, 55
			化の徹底を図ります。	29-	指標:容器包装プラスチック、PETボトルの伊賀北部 地域の資源化量(住民1人あたり)(kg)	3, 38	3.96			
18			市民や各団体が事施する資源回収活動を促進します。	さくらリサイクルセンター	資源再利用物回収奨励金制度を周知し、減少してい る申請受付件数を回復します。	2022	90	90	90	90
				廃棄物対策課	指標:資源再利用物回収奨励金申請受付件数(件)	87	110			
19		施策 2 リサイクル施設の整備	さくらリサイクルセンター資源化処理施設等の設備の充実を図り	さくらリサイクルセ	設備等の耐用年数を把握し施設整備工事等を計画的 に施工します。	2022	100	100	100	100
15		リサイクル施設の整備	ます。	ンター	※施設整備関係工事費の予算執行率 (%)	89.9	91.7			
	基本	施策 (3) ごみの適正処理 施策 1	の推進							
20		他来1 一般廃棄物の適正処理の 推進	ごみ処理に係る経費削減及び効率化を図るため、国が推進する 「持続可能な適正処理の確保に向けた、ごみ処理の広坡化及びご	廃棄物対策課	法定協議会を設置し、ごみ処理広域化基本構想を策 定します。	2022	10	30	100	-
Щ			み処理施設の集約化」を計画的に進めます。		指標:基本構想の策定進捗率 (%)	0	10			
21			一般廃棄物処理計画に基づく効率的な収集や適正処理を行いま	廃棄物対策課	一般廃棄物処理計画に基づき適正処理を維持しま す。	2022	100	100	100	100
			<del>ヺ</del> 。		指標:適正処理率(%)	100	100			
22			焼却施設、さくらリサイクルセンター資源化処理施設等につい ・	さくらリサイクルセ	施設の長寿命化を図ることを目的とした施設整備工 事等を計画的に行い、経年劣化に伴う機械設備等の	2022	100	100	100	100
			て、適正な維持管理を行います。	ンター	緊急修繕の発生を防ぎます。 指標:維持管理経費の予算執行率 (%)	93. 4	98. 6			
23			市外から持ち込まれる一般廃棄物は、適切な監視や指導を行いま	環境センター	区域外の一般廃棄物受入審査会で審査し、適正に処 理されるよう監視・指導を行います。	2022	3	3	3	3
20			す。 	9K96 C 2 7 -	程されるより監視・指導を行います。 指標:受入審査会の開催回数(回)	3	3			
24		施策 2 産業廃棄物の適正処理の	産業廃棄物処理施設の新設や既存施設の稼働については、本市の 自私か自然要確な与えたが、関の関連機関と連携! 指導事綱に	環境センター	市内2か所の最終処分場の放流水の水質検査を年1回	2022	100	100	100	100
24		産業廃業物の適止処理の 推進	良好な自然環境を守るため、県や関連機関と連携し、指導要綱に 基づく指導を行います。	休児にイソー	実施し、排水基準を守っていることを確認します。 指標:排水基準達成率 (%)	100	100			
25		施策3	ごみの不法投棄の監視に努めるとともに、不法投棄防止のための	さくらリサイクルセ	不法投棄物の処理量を現状値 (2022年度) 比5%減を 目標とします。	2022	8, 114	8,011	7, 908	7, 806
		不法投棄の防止	啓発を行います。	ンター	指標:不法投棄物の処理量 (kg)	8, 217	6, 931			

# 【基本目標3 豊かな自然】

_'											
施策			施策	各施策内容	担当所属等	中間達成目標 (事業及び数値指標の概要)	原状値			標/下段:	
No.	#+	- 11 1	 標3 豊かな自然			(2023~2026)	年度/実績	2023	2024	2025	2026
	巫平	× 11 1	標う 豆がな日然 豊かな自然と生								
		基本加	施策(1)豊かな自然環境								
			施策 1	河川や道路の工事は、濁水を発生させないなど生態系に配慮し行		生態系に配慮が必要な河川内工事について、濁水防 止のため、締め切りや沈砂槽の設置等を行います。	2022	100	100	100	100
26			水辺の保全	います。	道路河川課	指標: (濁水対策を行った工事数/濁水対策が必要な 河川内工事数) (%)	100	100			
			施策 2			流域防災機能強化対策事業等による間伐を継続して	2022	135	135	135	135
27			森林の保全	森林の多面的機能が発揮されるよう、間伐などによる森林整備を 行います。	農林振興課	実施します。 指標:流域防災機能強化対策事業による間伐面積			100	155	155
						(ha)	118. 7	97			
28				市民、NPOやボランティア団体等と協働のもと、里山の保全や持	農林振興課	みんなの里山整備活動推進事業により里山保全活動 に参加する人数を増やします。	2022	1,400	1,500	1,550	1,600
				続的整備を推進します。		指標:活動参加人数(人)	965	1, 230			
			施策 3 農地の保全	「地域計画(旧称 人・農地プラン)」や「農地中間管理事業」		農地中間管理事業により遊休・荒廃農地の活用面積	2022	790	800	810	820
29				などの制度を活用し、遊休・荒廃農地の発生抑制、再利用を推進 します。	農林振興課	を増やします。 指標:活用面積 (ha)	780	821			
							2022	530	630	730	830
30				地産地消を推進して市内産の農産物の消費量を拡大し、作付面積 を増やすことで田園環境や里山の維持、保全に務めます。	農林振興課	有機農業産地づくり推進事業による有機の水稲栽培 面積の拡大を進めます。 指標:事業対象となる拡大面積(a)	2022		030	150	030
						III W. TANDAC SONALIMINE (U)	0	595			
31				国の「みどりの食料システム戦略」や環境保全型農業直接支払交付金事業を活用するなどし、有機農業をはじめとする持続可能な	交	2022	2, 100	2, 150	2, 200	2, 250	
				農業を推進します。		指標:交付対象圃場面積 (a)	1, 899	2, 164			
			施策 4 「流域圏SDGs」の取り組	「伊賀城和定住自立圏共生ビジョン」に基づき、圏域構成市町村		市町村間・地域間で情報交換・協力しながら、環境 バトロールによる不法投棄の抑制及び回収を行いま	2022	12, 263	11, 177	10, 091	9,000
32			**	が連携して、木津川流域の保全、整備、活用に取り組みます。	総合政策課	指標:不法投棄回収量(kg)	13, 820	6, 931			
						木津川及びその支流における河川美化活動及び啓発	2022	219	261	303	350
33				圏域内で連携し、河川環境保全への意識の高揚・定着を図る啓発 事業を行います。	総合政策課	事業を毎年継続的に実施します。 指標:河川美化活動及び啓発事業への参加者数			201	000	555
						(A)	370	422			
34				幼少期から圏域住民としての一体感を養うための交流を通して、 エリアプライド (圏域の誇り・自尊心) の顔成に取り組みます。	総合政策課	圏域内の住民活動団体の取り組みを展示・情報発信 し、住民間の交流を図ります。圏域の将来を担う若 去世代の交流を添めます。	2022	2	3	4	5
				ー・ファンフィロ・(ESE REVIEW グ・ロ WHILT) VIREUM にAL V MEE FA F 。		者世代の交流を進めます。 指標:地域間交流の取組数(件)	1	3			
		基本加	施策 (2) 生物多様性	ー・ファンティー (図 W 28 y ) 日 中心 / い BELL に AL / RE・アメラ。			1	3			
35		基本质	施策 1	大規模開発については、希少野生動媒物種を保護するため、環境		指標:地域間交流の取組数(件) 指標:地域間交流の取組数(件) 環境アセスメントに係る事業について、希少野生動	2022	100	100	100	100
35		基本前	施策 1		環境センター	指標:地域間交流の取組数(件)	2022		100	100	100
	19	基本加	施策 1	大規模開発については、希少野生動媒物種を保護するため、環境	環境センター	指標:地域間交流の取組数 (件) 環境アセスメントに係る事業について、希少野生動 被物が保護されるよう、果と協力して指導します。 な影当事業に切する指導実施率 (%) ①特別天然記念物オオサンショウウオの緊急保護調		100	100	100	100
35	179	基本前	施策 1	大規模開発については、希少野生動媒物種を保護するため、環境		指標:地域間交流の取組数 (件) 環境アセスメントに係る事業について、希少野生動 解動が保護されるよう、最と協力して指導します。 会談当事業に対する指導実施率(%)	100	100	100	100	100
	100	基本崩	施策 1	大規模開発については、希少野生動媒物種を保護するため、環境	環境センター	指標: 地域間交流の取組数 (件) 環境アセスメントに係る事業について、希少野生動 解動が保護されるよう、県上協力して指導します。 辛該当事業に対する指導実施率 (%) ①特別天然記念物オオサンショウウオの緊急保護調 査を適切に実施します。 指標: 年間の緊急保護調査件数 (件)	2022 3	100	100	100 5	100
	100	基本意	施策 1	大規模開発については、希少野生動植物種を保護するため、環境 アセスメントの実施について、回・県と連携して指導します。	環境センター	指標:地域間交流の取組数 (件) 環境アセスメントに係る事業について、希少野生動 解動が保護されるよう、果と協力して指導します。 辛該当事業に対する指導実施率(%) ①特別天然記念物オオサンショウウオの緊急保護調 産を適切に実施します。 指標: 中間の緊急保護調査件数 (件) ②限期定天然記念物の形のの/ハナショウブ群落の保 金活動を実施します。	2022 3 2022	100 100 5 5	100 5	5	5
36	144	基本就	施策 1	大規模開発については、希少野生動植物種を保護するため、環境 アセスメントの実施について、回・県と連携して指導します。	環境センター 文化財課	指標:地域間交流の取組数 (件) 環境アセスメントに係る事業について、希少野生動 植物が保護されるよう、果上協力して指導します。 会該当事業に対する指導実施率 (%) ①特別天然記念物オオサンショウウオの緊急保護調 査を選切に実施します。 指標:年間の緊急保護調査件数 (件) ②無指定天然記念物西沢のノハナショウブ群落の保 全活動を実施します。 指標:保護活動実施しまり。	100 2022 3 2022 14	100 100 5 5 5 12	5	5	5
36		基本质	施策 1	大規模開発については、希少野生動植物種を保護するため、環境 アセスメントの実施について、回・県と連携して指導します。	環境センター 文化財課	指標:地域間交流の取組数 (件) 環境アセスメントに係る事業について、希少野生動 解動が保護されるよう、最と協力して前導します。 学展当事業に対する指導実施率(%) ①特別天然記念参末オナッショウウオの緊急保護調 査を適切に実施します。 指標:年間の緊急保護調査件数(件) ②無指定天然記念物西沢のノハナショウブ群落の保 指標:保護活動支施日数(日) オオサンショウタオに対する生息状況開査や工法の 検討が必要な範囲での同川内工事において、必要な 手続きと上述の理定を行います。(対応を行った)をあな	2022 3 2022	100 100 5 5	100 5 5	100 5 5	100 5 5
36		基本前	施策 1	大規模開発については、希少野生動植物種を保護するため、環境 アセスメントの実施について、国・県と連携して指導します。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	環境センター 文化財票 文化財課	指標:地域間交流の取組数 (件) 環境アセスメントに係る事業について、希少野生動 植物が保護されるよう。果上協力して指導します。 会該当事業に対する指導実施率 (%) ①特別天然記念物オオサンショウウオの緊急保護調 査を適切に実施します。 指標:年間の緊急保護調査件数 (件) ②無指定天然記念物西沢のノハナショウブ群落の保 全活動を実施します。 指標:保護活動実施日数 (日) オオサンショウウエはする全息状況調査や工法の 検討必要な範囲での河川内工事において、必要な	100 2022 3 2022 14	100 100 5 5 5 12	5	5	5
36 36		基本質	施策 1	大規模開発については、希少野生動植物種を保護するため、環境 アセスメントの実施について、国・県と連携して指導します。 希少野生動植物種の保護・育成を行うための支援を行います。 希少野生動植物種の保護・育成を行うための支援を行います。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	環境センター 文化財課 文化財課 道路河川課	指標:地域間交流の取組数 (件)  環境アセスメントに係る事業について、希少野生動機動が保護されるよう、最と協力して指導します。  学級当事業に対する指導実施率 (%)  特別天然記念物オオサンショウウオの緊急保護調査を適切に実施します。  指標:年間の緊急保護調査件数 (件)  ②照指定天然記念物西沢のノハナショウブ群落の保全活動を実施します。  指標:保護品動物施日数 (日)  オオサンショウウオに対する生息状況調査や工法の検討が必要な範囲での同川外工事において、必要な手続きと工法の選定を行います。(対応を行った工事設/オオサンショウウオの対応が必要な範囲内での同川内工事と)(%)  生物多様性地域戦略策定についての検討結果を基に	100 2022 3 2022 14 2022	100 100 5 5 5 12	5	5	5
36		基本说	施策 1	大規模開発については、希少野生動植物種を保護するため、環境 アセスメントの実施について、国・県と連携して指導します。 希少野生動植物種の保護・育成を行うための支援を行います。 希少野生動植物種がみられる河川・湿地帯の保全に努めます。	環境センター 文化財票 文化財課	指標:地域間交流の取組数 (件) 環境アセスメントに係る事業について、希少野生動 植物が保護されるよう、県、協力して指導します。 次該当事業に対する指導実施率 (%) ①特別天然配金物オオサンショウウオの緊急保護調 査を適切に実施します。 指標:年間の緊急保護調査件数 (件) ②県指定天然配金物西沢のノハナショウブ群落の保 全話節を実施します。 指標:保護活動実施日数 (日) オオサンショウカオに対する生息状況調査や工法の 検討が必要な施間での同川的工事において、必要な 手続きと工法の選定を行います。(対応を行った工 事業(オオサンショウカスの対応が必要な範囲内での 同川内工事故) (%)	100 2022 3 2022 14 2022 100	100 100 5 5 12 100 100	5	5 5 100	5 5 100
36 36		基本就	施策1 市少野生動植物種の保護 施業2	大規模開発については、希少野生動植物種を保護するため、環境 アセスメントの実施について、国・県と連携して指導します。 希少野生動植物種の保護・育成を行うための支援を行います。 希少野生動植物種が保護・育成を行うための支援を行います。 を動き生態を受けるため、基本的な方針を定 生物多様性を総合的・計画的に保全するため、基本的な方針を定 める生物多様性地域戦略の策定を検討します。	環境センター 文化財課 文化財課 道路何川課 生活環境課	指標:地域間交流の取組数 (件)  環境アセスメントに係る事業について、希少野生動 植物が保護されるよう、県上協力して指導します。 会談当事業に対する指導実施率 (%)  ①特別天然配念物オオサンショウウオの緊急保護調 査を適切に実施します。 指標:年間の緊急保護調査件数 (件)  ②無指定天然配念物西沢のノハナショウブ群落の保 全活動を実施します。 指標:保護活動実施日数 (日) オオサンショウウオに対する生息状況調査や工法の 検討が必要な範囲での同川内工事において、必要な 手続於と工法の選定を行います。(対応を行った工 事業パオナンショウウオの対応が必要な範囲内での 同川内工事故) (%)  生物多様性地域歌略策定についての検討結果を基に 方針を取りまとめる。	100 2022 3 2022 14 2022 100	100 100 5 5 5 12 100 100 100	5	5 5 100	5 5 100
36 36		基本就	施策1 市少野生動植物種の保護 施業2	大規模開発については、希少野生動植物種を保護するため、環境 アセスメントの実施について、国・県と連携して指導します。 希少野生動植物種の保護・育成を行うための支援を行います。 希少野生動植物種の保護・育成を行うための支援を行います。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	環境センター 文化財課 文化財課 道路何川課 生活環境課	指標:地域間交流の取組数 (件) 環境アセスメントに係る事業について、希少野生動機動が保護されるよう、最と協力して指導します。 学校当事業に対する指導実施率 (%) 砂特別天然記念物オオサンショウウオの緊急保護調査を選切に実施します。 指標:年間の緊急保護調査件数 (件) ②照指定天然記念物西沢のノハナショウブ群落の保全活動を実施します。 指標:保護活動が進日数 (日) オオサンショウウオに対する生息状況調査や工法の検討が必要な範囲での同川外工事において、必要な手続きと工法の選定を行います。(対応を行った工事設/オオサンショウウオの対応が必要な範囲内での同川内工事が)(%) 生物多様性地域戦略策定についての検討結果を基に方針を取りまとめる。 生物多様性地域戦略策定についての検討結果を基に方針を取りまとめる。	100 2022 3 2022 14 2022 100 2022 0 2022	100 100 5 5 5 12 100 100 100 10 550	5 5 100 25	5 5 1000	5 5 100 60
36 36 37			施策1 市少野生動植物種の保護 施業2	大規模開発については、希少野生動植物種を保護するため、環境 アセスメントの実施について、国・県と連携して指導します。 希少野生動植物種の保護・育成を行うための支援を行います。 希少野生動植物種がみられる何川・湿地帯の保全に努めます。 生物多様性を総合的・計画的に保全するため、基本的な方針を定 める生物多様性地域戦略の策定を検討します。 特定外来生物については、国や県と連携し、状況把握や情報発信 を行います。	環境センター 文化財票 文化財票 道路河川課 生活環境課	指標:地域間交流の取組数 (件)  環境アセスメントに係る事業について、希少野生動構動が保護されるよう、最と協力して指導します。  学展当事業に対する指導実施率 (%)  砂特別天然記念物オオサンショウウオの緊急保護調査を追切に実施します。 指標:年間の緊急保護調査件数 (件)  ②無指定天然記念物西沢のノハナショウブ群落の保 指標:年間の緊急保護調査件数 (件)  オオサンショウカに対する生息状況調査や工法の検討が必要な範囲での河川内工事において、必要な手続きと上流の選を行いで、必要な手続きと上流の選を行いて、必要な手続きと上流の選を行いて、必要な手続きと上流の選を行りでの河川内工事(がなどの大力を対して、の間内に不等のが大力・ショウカイの対応が必要な範囲内での河川内工事(が、)(%)  生物多様性地域戦略策定についての検討結果を基に方針を取りまとめる。 生物多様性地域戦略策定に分にの検討結果を基に方針を取りまとめる。 生物多様性地域戦略策定に分にの検討結果を基に	100 2022 3 2022 14 2022 100 2022	100 100 5 5 12 100 100 100 100 10	5 5 100 25	5 5 1000	5 5 100 60
36 36 37			施策1 南少野生動植物種の保護 施策2 外来生物への対応 施策(3) 公園の整備や縁 施策(3)	大規模開発については、希少野生動植物種を保護するため、環境 アセスメントの実施について、国・県と連携して指導します。 希少野生動植物種の保護・育成を行うための支援を行います。 希少野生動植物種がみられる何川・湿地帯の保全に努めます。 生物多様性を総合的・計画的に保全するため、基本的な方針を定 める生物多様性地域戦略の策定を検討します。 特定外来生物については、国や県と連携し、状況把握や情報発信 を行います。	環境センター 文化財票 文化財票 道路河川課 生活環境課	指標:地域間交流の取組数 (件)  環境アセスメントに係る事業について、希少野生動解動が保護されるよう、最上協力して指導します。  ②教育事業に対する指導実施率(%)  ①特別天然記念物オオサンショウウオの緊急保護調査活動切に実施します。 指標:年間の緊急保護調査件数(件)  ②風指定天然記念物西沢のノハナショウブ群落の保措標:保護活動実施します。  は標:保護活動実施日数(日)  オオサンショウウオに対する生息状深調査や工法の検討が必要な範囲での河川内工事において、必要な手続きて上流の変を行います。(対応を行った)  ボオナンショウウオの対応が必要な範囲内での河川内工事数(%)  生物多様性地域戦略策定についての検討結果を基に万分を収りまさめる。 生物多様性地域戦略策定にかいての検討結果を基に万分を収りままめる。 生物多様性地域戦略策定の検討の進捗率(%)  アライグマの情報に必要な情報許可制度の周知・啓発を図り、生態が等に係る被害の助止を連めます。  株態:アライグマの情報(必要な情報等)  株態:アライグマの情報(必要な情報等)  株態:アライグマの情報を経済を経済を開かる進歩率(%)	100 2022 3 2022 14 2022 100 2022 0 2022	100 100 5 5 5 12 100 100 100 10 550	5 5 100 25	5 5 1000	5 5 100 60
36 36 37			施策 1 南少野生動植物種の保護 施策 2 外条生物への対応 施策 (3) 公園の整備や縁	大規模開発については、希少野生動植物種を保護するため、環境 アセスメントの実施について、国・県と連携して指導します。 希少野生動植物種の保護・育成を行うための支援を行います。 希少野生動植物種がみられる何川・湿地帯の保全に努めます。 生物多様性を総合的・計画的に保全するため、基本的な方針を定 める生物多様性地域戦略の策定を検討します。 特定外来生物については、国や県と連携し、状況把握や情報発信 を行います。	環境センター 文化財票 文化財票 道路河川課 生活環境課	指標・地域間交流の取組数 (件) 環境アセスメントに係る事業について、希少野生動機物が保護されるよう、最と協力して指導します。	100 2022 3 2022 14 2022 100 2022 0 2022 465	100 100 5 5 5 12 100 100 10 10 442	5 100 25 600	5 5 100 40 600	5 5 100 60
36 36 37 38			施策1 南少野生動植物種の保護 施策2 外来生物への対応 施策(3) 公園の整備や縁 施策(3)	大規模開発については、希少野生動植物種を保護するため、環境 アセスメントの実施について、国・県と連携して指導します。 希少野生動植物種の保護・育成を行うための支援を行います。 希少野生動植物種がみられる何川・湿地帯の保全に努めます。 生物多様性を総合的・計画的に保全するため、基本的な方針を定める生物多様性を総合的・計画的に保全するため、基本的な方針を定める生物多様性地域戦略の策定を検討します。 特定外来生物については、国や県と連携し、状況把握や情報発信を行います。	環境センター 文化財課 文化財課 室路河川課 生活環境課 農林振興課	指標:地域間交流の取組数 (件)  環境アセスメントに係る事業について、希少野生動機動が保護されるよう、最と協力して指導します。  学展当事業に対する指導実施率 (%)  ①特別天然記念物西沢のノハナショウウオの緊急保護調査を追切に実施します。 指標:年間の緊急保護調査件数 (件)  ②無指定天然記念物西沢のノハナショウプ群落の保全活動を実施します。 (4)  は、年間の緊急保護調査件数 (件)  オオサンショウウオに対する生息状況調査や工法の検討が必要な範囲での同川内工事において、必要な工事故となる要な範囲での同川内工事において、必要な工事故と工法の選定を行いまず。(対応を行った)の場合が表現の場合での同川内工事が (%)  生物多様性地域戦略策定についての検討結果を基に手動を取りまとめる。 生物多様性地域戦略策定についての検討結果を基に方針を取りまとめる。 生物多様性地域戦略策定についての検討結果を基に方針を取りまとめる。 生物多様性地域戦略策定についての検討結果を基に力がと取りまとめる。 生物多様性地域戦略策定についての検討結果を基に方針を取りまとめる。 生物多様性地域戦略策定についての検討結果を基に対する場合を書の防止を進めます。指標:アライグマの結構に必要な結構発計可制度の周知・啓発と図り、生態系等に係る後常の防止を進めます。指標:アライグマ中間捕獲数 (頭)	100 2022 3 2022 14 2022 100 2022 465 2022 98.07	100 100 5 5 5 12 100 100 10 10 442 100 98.9	5 5 100 25 600	5 5 100 40 600 100	5 5 100 600
36 36 37 38			施策1 南少野生動植物種の保護 施策2 外来生物への対応 施策(3) 公園の整備や縁 施策(3)	大規模開発については、希少野生動植物種を保護するため、環境 アセスメントの実施について、国・県と連携して指導します。 希少野生動植物種の保護・育成を行うための支援を行います。 希少野生動植物種がみられる何川・湿地帯の保全に努めます。 生物多様性を総合的・計画的に保全するため、基本的な方針を定める生物多様性を総合的・計画的に保全するため、基本的な方針を定める生物多様性地域戦略の策定を検討します。 特定外来生物については、国や県と連携し、状況把握や情報発信を行います。	環境センター 文化財課 文化財課 室路河川課 生活環境課 農林振興課	指標:地域間交流の取組数 (件)  環境アセスメントに係る事業について、希少野生動構動が保護されるよう、最と協力して前導します。 学展当事業に対する指導実施率(%)  ①特別天然志念物オオサンショウウオの緊急保護調査・設定の関係を実施します。 指標:年間の緊急保護調査件数(件)  ②無指定天然記念物西沢のノハナショウブ群落の保全活動を実施します。 (場別を実施します。) (場別・年間の緊急保護調査件数(件)  オオサンショウウオに対する生息状況開棄や工法の検討が必要な範囲での同川内工事において、必要な手続きと正式の選定を行います。) (対応を行った。(対応で行った)  本動を媒性地域戦略策定についての検討結果を基に力がを媒性地域戦略策定についての検討結果を基に力がを関けまとめる。 生物を媒性地域戦略策定についての検討結果を基に力がを媒性地域戦略策定にの検討の連抄率(%)  生物を媒性地域戦略策定についての検討結果を基に力がを媒性地域戦略策定にの検討の連抄率(%)  生物を媒性地域戦略策定についての検討結果を基に力がを駆けた場合、対力が応じた。 第一次 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	100 2022 3 2022 14 2022 100 2022 0 2022 465	100 100 5 5 5 12 100 100 10 10 442	5 100 25 600	5 5 100 40 600	5 5 100 60
36 36 37 38 39			施策1 南少野生動植物種の保護 施策2 外来生物への対応 施策(3) 公園の整備や縁 施策(3)	大規模開発については、希少野生動植物種を保護するため、環境 アセスメントの実施について、国・県と連携して指導します。 希少野生動植物種の保護・育成を行うための支援を行います。 希少野生動植物種がみられる何川・湿地帯の保全に努めます。 生物多様性を総合的・計画的に保全するため、基本的な方針を定める生物多様性を被配の質定を検討します。 特定外来生物については、国や県と連携し、状況把握や情報発信 むる生物がは、国や県と連携し、状況把握や情報発信 と行います。	環境センター 文化財課 文化財課 道路河川課 生活環境課 農林振興課	指標:地域間交流の取組数 (件)  環境アセスメントに係る事業について、希少野生動 級効が保護されるよう、県と協力して指導します。 交換では保護されるよう、県と協力して指導します。 交換では保護されるよう、県と協力して指導します。 次表では、大型では、現代を 企識切に実施します。 指標:年級直接に対して、 の集制を実施します。 の集制を実施します。 の集制を実施します。 の集制を実施します。 の集制を実施します。 の集制を実施します。 の場合のである保護調査や工法の 検討が必要な起間での同川内工事において必要を がお必要なが過ごのでの同川内工事において必要を の所的であると工法の の同川内工事は、の場を行っなよる 可川内工事数 (%)  生物を様性地域戦略策定についての検討結果を基に 方針を使りまとめる。 生物多様性地域戦略策定についての検討結果を基に 方針を使りまとめる。 生物多様性地域戦略策定についての検討結果を基に 方針を使りまとめる。 生物多様性地域戦略策定についての検討結果を基に 方針を使りまとめる。 生物多様性地域戦略策定にの検討の進捗率 (%)  本語の事態は必要な経過時での 同川市である場合との での情報に必要な経過度許可削度の周知・啓 発を限り、生態系等に係る被害の防止を進めます。 指標:アライグマ中間結構数 (類)  縁動かて開放的な環境を維持し、誰もが安全安心に 利用できる都市公園になるよう維持管理を行いま ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	100 2022 3 2022 14 2022 100 2022 465 2022 98.07	100 100 5 5 5 12 100 100 10 10 442 100 98.9	5 5 100 25 600	5 5 100 40 600 100	5 5 100 600
36 37 38 39 40			施策 1 南少野生動植物種の保護 施策 2 外来生物への対応 極策 (3) 公園の整備や縁 施策 1 公園の整備や縁化の推進	大規模開発については、希少野生動植物種を保護するため、環境 アセスメントの実施について、国・県と連携して指導します。 希少野生動植物種の保護・育成を行うための支援を行います。 希少野生動植物種がみられる何川・湿地帯の保全に努めます。 生物多様性を総合的・計画的に保全するため、基本的な方針を定める生物多様性を被配の質定を検討します。 特定外来生物については、国や県と連携し、状況把握や情報発信 むる生物がは、国や県と連携し、状況把握や情報発信 と行います。	環境センター 文化財課 文化財課 支化財課 生活環境課 農林振興課 都市計画課	指標:地域間交流の取組数 (件)  環境アセスメントに係る事業について、希少野生動機動が保護されるよう、最と協力して指導します。 学施当事業に対する指導実施率 (%)  ①特別天然記念物オオサンショウウオの緊急保護調査を適切に実施します。 指標:年間の緊急保護調査件数(件)  ②照指定天然記念物西沢のノハナショウブ群落の保全指動を実施します。 指標:保護活動が進日数(日)  オオサンショウウオに対する生息状況調査や工法の検討が必要な範囲での同川均工事において、必要な手続きと正か通常を行います。(対応を行った工事政/オオサンショウウオの対応が必要な範囲やつの川均工事と対して、必要な手続きと正か通常を行ります。対応を取りまとめる。 生物多様性地域歌略策定についての検討結果を基に方がを取りまとめる。 生物多様性地域歌略策定についての検討結果を基に方がを取りまとめる。 生物多様性地域歌略策定についての検討結果を基に方がを取りまとめる。 生物多様性地域歌略策定についての検討結果を基に方がを取りまとめる。 生物多様性地域歌略策定についての検討結果を基に方がを関する。(物)  生物多様性地域歌略策定についての検討結果を基に方がを関する。(物)  生物多様性地域歌略策定についての検討結果を表に同います。 建物・可能を開発を開発を表した。  建心・関係の関係を表した。  ないています。  ないないます。  ないています。  ないています。  ないています。  ないないます。  ないています。  ないています。  ないないます。  ないないないます。  ないないます。  ないないないます。  ないないます。  ないないないます。  ないないないます。  ないないないます。  ないないないます。  ないないないます。  ないないないます。  ないないないます。  ないないないないます。  ないないないないます。  ないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	100 2022 3 2022 14 2022 100 2022 465 2022 98.07	100 100 5 5 5 12 100 100 10 10 442 100 98.9	5 5 100 25 600	5 5 100 40 600 100	5 5 100 600
36 36 37 38 39			施策 1 南少野生動植物種の保護 施策 2 外来生物への対応 極策 (3) 公園の整備や縁 施策 1 公園の整備や縁化の推進	大規模開発については、希少野生動植物種を保護するため、環境 アセスメントの実施について、国・県と連携して指導します。 希少野生動植物種の保護・育成を行うための支援を行います。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	環境センター 文化財課 文化財課 道路河川課 生活環境課 農林振興課	指標:地域間交流の取組数 (件)  環境アセスメントに係る事業について、希少野生動 核対的保護されるよう、県と協力して指導します。 表が言事策に対する指導実施率が、 ①特別天然記念物でオサンショウカスの緊急保護調	100 2022 3 2022 14 2022 100 2022 465 2022 98.07 2022 0	100 100 5 5 5 12 100 100 10 10 442 100 98.9 100 99.7	5 5 100 25 600 100 100 100	5 5 1000 400 1000 1000 1000 1000 1000 10	5 5 100 600 100
36 37 38 39 40			施策1 南少野生動植物種の保護 施策2 外来生物への対応 施策1 公園の整備や緑化の推進 施策2	大規模開発については、希少野生動植物種を保護するため、環境 アセスメントの実施について、国・県と連携して指導します。 希少野生動植物種の保護・育成を行うための支援を行います。 希少野生動植物種の保護・育成を行うための支援を行います。 を参多傑性を総合的・計画的に保全するため、基本的な方針を定める生物多傑性を域戦略の策定を検討します。 特定外来生物については、国や県と連携し、状況把握や情報発信 と の の の の の の の の の の の の の	環境センター  文化財課  文化財課  支化財課  支化財課  生活環境課  集林振興課  都市計画課  最林振興課	指標:地域間交流の取組数 (件)  環境アセスメントに係る事業について、希少野生動幅効な保護されるよう、最と協力して指導します。 次接当事業に対する指導実施率 (%)  ①特別天然記念物オオサンショウウオの緊急保護調査を適切に実施します。 指標:年間の緊急保護調査件数(件)  ②無指定天然記念物西沢のノハナショウブ群落の保全指筋を実施します。 指標:年間的緊急保護調査件数(件)  オオサンショウウオに対する生息状況調査や工法の検討が必要な範囲での同川外工事において、必要な手続きと正力の選定を行いままでは大きが必要な範囲での同川内工事は、(物なを行った工事がオオサンショウウオの対応が必要な範囲へでの同川内工事が)(%)  生物多様性地域戦略策定についての検討結果を基に手動を軽性地域戦略策定についての検討結果を基に方がを取りまとめる。 生物多様性地域戦略策定についての検討結果を基に方がを取りまとめる。 生物多様性地域戦略策定についての検討結果を基に方がを取りまとめる。 生物多様性地域戦略策定についての検討結果を基に方がを取りまとめる。 生物多様性地域戦略策定についての検討結果を基に対する場合に対していまり(物)  生物多様性地域戦略策定についての検討結果を表に対していまり(物)  生物多様性地域戦略策定についての検討結果を表にの対応を関かまままり(物)  生物多様性地域戦略策定についての検討結果を表に対しています。 対応を関する対応を表に対しています。  を整めて関な的などの関本が大きな対応を関する対応を表示した。  を整めて関本的などの表示を表示しています。  本語ので表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表	100 2022 3 2022 14 2022 100 2022 465 2022 98.07 2022 0	100 100 5 5 5 12 100 100 10 10 550 442 100 98.9 100	5 5 100 25 600 100 100 100	5 5 1000 400 1000 1000 1000 1000 1000 10	5 5 100 600 100
36 37 38 39 40			施策 1 南少野生動植物種の保護 施策 2 外来生物への対応 極策 (3) 公園の整備や縁 極策 1 公園の整備や縁化の推進	大規模開発については、希少野生動植物種を保護するため、環境 アセスメントの実施について、国・県と連携して指導します。 希少野生動植物種の保護・育成を行うための支援を行います。 希少野生動植物種の保護・育成を行うための支援を行います。 生物多様性を総合的・計画的に保全するため、基本的な方針を定める生物多様性を域戦略の策定を検討します。 特定外来生物については、国や県と連携し、状況把握や情報発信 化 公園、緑地の適切な維持管理を行います。 公園の計画的な整備を行います。 市民農園の貸出し等、自然とのふれあいが図れる施設の紹介を行	環境センター 文化財課 文化財課 支化財課 生活環境課 農林振興課 都市計画課	指標・地域間交流の取組数 (件)  環境アセスメントに係る事業について、希少野生動 核効な事業にするよう、最と協力して指導します。 素が言事業にする指導実施率 (力・物列天然配金物オオサンショウカオの緊急保護調	100 2022 3 2022 14 2022 100 2022 465 2022 98.07 2022 0 2022 0	100 100 5 5 5 12 100 100 10 10 550 442 100 98.9 100	5 5 100 25 600 100 100 100	5 5 100 40 600	5 5 100 600 100 100

# 【基本目標4 生活環境】

施						中間達成目標	原状値	数值指	標(上段:	目標/下段:	実績)
策 No.			施策	各施策内容	担当所属等	(事業及び数値指標の概要) (2023~2026)	年度/実績	2023	2024	2025	2026
E	基本		票4 生活環境 安心・安全に暮 <sup>(鎌(1)</sup> 公害発生の防止	らせる生活環境の確保							
44				事業所等の大気汚染や悪臭防止のために県と連携し、生産工程の 設備などによる固定発生源対策の推進に努めます。	環境センター	環境保全協定書に基づき、ばい煙の測定結果の報告 を受け、必要に応じて指導等を行います。 (10 社) 指標:基準達成率(%)	2022	100	100	100	100
45				自動車や事業所等の悪臭や騒音・振動に係る測定・調査の実施及 び指導や助言、啓発を推進します。	環境センター	自動車交通騒音を計画どおり測定し、必要に応じて 指導等を行います。 指標:環境基準達成率 (%)	2022 99. 4	100 99. 6	100	100	100
46				現在、本市では、悪臭の22物質について濃度規制を行っています が、においを発生する物質はこの22物質以外にも存在しているこ とから、今後は人間の嗅覚によって数値化した臭気指数で規制す る方向で検討していきます。	環境センター	臭気指数と物質濃度の同時測定を行い、臭気指数規 制の導入の可否について今年度中に結論を出しま す。 指標:臭気指数導入検討の進捗率 (%)	2022	100	-	-	_
47				水質監視・悪臭測定等、伊賀市環境センター機能を充実し、環境 監視の強化に努めます。	環境センター	老朽化した機器は計画的に更新し、分析精度を維持 します。現在更新を必要とする臭気測定機器の更新 を行います。 指標:機器更新の進捗率(%)	2022	10	100	_	_
48				事業所に対し、有害化学物質の排出抑制に関する指導・助言を行 います。	環境センター	環境保全協定に基づき、排水検査結果の報告を受け、必要に応じて限への報告等の対応を行います。 指標:基準達成率(%)	2022 95. 6	100 92. 9	100	100	100
49				有害な化学物質についての適正使用や保管に関する情報提供を行 います。	環境センター	市民や事業者からの問い合わせに対し、情報を提供 します。 指標:情報提供回数(回)	2022	10	10	10	10
50			施策 3 生活排水対策の推進	国、県、関連団体と連携した河川水質監視を実施します。	環境センター	環境センターで市内15か所の河川水質調査を年4回 行います。 指標:環境基準が設定されている8地点のBOD環境基 準達成率(%)	2022 100	100	100	100	100
51				合併処理浄化槽の設置及び維持管理に関する啓発を、生活排水対 策重点地域を中心に行います。	下水道課 環境センター 生活環境課	生活排水対策推進計画 (久米川流域) の見直しを行 い、合併処理浄化構設置等の推進を図ります。 指標: 生活排水対策推進計画 (久米川流域) 改訂の 進捗準 (%)	2022	10%	100%	_	_
		基本加	i策 (2) 生活環境の保全								
52			土地等(空き家等)の適	周辺の生活環境保全のため放置することが不適切である状態の空 き家について、「空き家等対策の推進に関する特別措置法」に基 づく措置を講じます。	空き家対策室	放置することが不適切な空き家の所有者に対して費 用補助を行い適切な除却を推進します。 指標:除却費補助件数(件)	2022	10	10	10	10
53				空き地の雑草等除去に関する条例に基づき、住宅地の空き地等が 適正に管理される	環境センター	苦情に対し、現地確認を行い、土地の所有者に対し て適正管理するよう指導します。	2022	53	54	55	56
				ように努めます。		指標:通知件数に対する所有者の対応率(%) 事業者に対して、条例に基づき適正に処分するよう	52. 9 2022	50 100	100	100	100
54				「伊賀市土砂等の埋立て等による土壌汚染及び災害の発生の防止 に関する条例」等に基づき、市外から汚染された土壌が持ち込ま れることがないように努めます。	環境センター	指導します。大規模が埋め立てについては県と協力 して指導します。 指標:指導対象事業者に対する指導率 (%)	100	100	100	100	100
55			施策2 生活環境保全に係る相談	野焼きの煙等、生活環境の保全に係る相談や関連情報の発信を行 います。	環境センター	広報やケーブルテレビで野焼きの禁止について啓発 します。それぞれ年1回行います。 指標: 啓発回数 (回)	2022	2	2	2	2
56			施策3 健全な水循環の維持	適正な地下水採取の維持等により、水資源の保全に取り組みま	生活環境課	水循環基本法の基本理念に基づく地下水の実態把握 と適切な保全のため、地下水採取事業者の協力によ	2022	30	60	80	100
30				<b>च</b> ै.	Lind Str. Old Bit	りモデル地域における調査事業を推進します。 指標:事業進捗率(%)	0	30			

# 【基本目標5 文化環境】

施			Andre Andre	to the files and the	in war mile	中間達成目標	原状値	数值指	膘(上段:目	標/下段:	実績)
策 No.			施策	各施策内容	担当所属等	(事業及び数値指標の概要) (2023~2026)	年度/実績	2023	2024	2025	2026
	基本	□目		らしに活かす文化環境の確保							
H	[	基本施	正文 人に 合 「策 (1) 文化環境の維持	うしに伯がり入口來売り惟休							
П			施策 1			文化施設の草刈りを行い、適切な保存管理を行いま	2022	100	100	100	100
57			歴史的文化的施設の保 全・管理と有効活用	周辺の自然環境や生活環境と調和した歴史的文化環境の適切な保	文化振興課	す。 指標:文化施設草刈費用の予算執行率(%)	100	100			
				存管理を行います。		史跡の草刈りを行い、適切な保存管理を行います。	2022	100	100	100	100
57					文化財課	指標:史跡草刈費用の予算執行率(%)	100	100			
						市民が創作者、鑑賞者の両側面から文化芸術活動に	2022	1, 100	1, 150	1, 200	1, 250
58				すべての文化芸術活動の充実を図るための環境整備を図ります。	文化振興課	参画できる環境整備を測ります。 指標:市展いが入場者数 (人)	991	1,029			
						伊賀市の誇る歴史的・文化的遺産である上野城跡で 薪能を実施し、市民が伝統文化に触れる環境維持に	2022	1	1	1	1
59				歴史的・文化的遺産を地域資源として活用し、文化芸術環境づく	文化振興課	粉能と大地と、「氏が仏地スにに加えり来先維持に 努めます。 指標:薪能実施件数(件)	1	1			
				(近人が) 人にの遺伝を心気質感として旧角し、人に云が赤め / いりを進めます。		文化財施設でのイベントを実施します。	2022	10	10	10	10
59					文化財課		19	19			
П				文化活動への参加等を促進し、文化芸術の持つコミュニケーショ	)参加等を促進し、文化芸術の持つコミュニケーショ 7、共感力、想像力等の社会包摂機能を活かし、市の 解決に取り組みます。 一般では、大化芸術の力を活かした社会的課題の解決に取組む基盤づくり を権能します。 指標:市民文化祭中込団体数(団体)		2022	63	66	69	72
60				ンカや表現力、共感力、想像力等の社会包摂機能を活かし、市の 社会的課題の解決に取り組みます。			61	60			
			施策 2	松尾芭蕉等先人漆の清楽である郷土の文化環境に触れる機会をつ	芭蕉翁記念館の入館者を増やすことで先人達の残し さなりがか財産が個人の立りを運転の入って即転を回		2022	20,000	20,000	20, 000	20,000
61			郷土の歴史が育んできた 文化環境の保全	くります。	文化振興課	進します。 指標:芭蕉翁記念館入館者数(人)	9303	9, 164			
						伊賀市の誇る文化遺産である伝統行事「上野天神祭 ダンジリ行事」を担う市民団体の活動を支援し、次	2022	1	1	1	1
62					文化振興課	世代への継承を推進します。 指標:伝統行事への補助実績(回)	1	1			
				郷土の豊かな自然環境を舞台にした伝統的行事などの保存と継承		①無形民俗文化財等の民俗行事について現地調査を	2022	3	3	3	3
62				に努めます。	文化財課	実施し、民俗文化財調査カードを作成します。 指標:民俗文化財調査カード作成件数(件)	0	3			
						②無形民俗文化財保存継承事業を実施します。	2022	2	2	2	2
62					文化財課	指標:事業実施件数(件)	2	2			
		基本施	5策 (2) 多文化共生と地	<b>城環境づくり</b>							
63			施策1	国籍や言語を超えた交流行事等により、多様な文化を受け入れる	多文化共生課	多文化共生理解事業や国際交流フェスタなどを通し て多文化交流の機会を充実します。	2022	3	3	3	3
			多文化共生意識の醸成	意識を醸成します。		指標:多文化共生理解イベントの実施回数(回)	4	6			
64			施策 2 外国人住民等の地域社会	外国人住民等が様々な地域活動に参画し、環境保全に貢献できる	多文化共生課	多文化共生センターホームページ、フェイスブック を活用し、積極的な情報発信に努めます。	2022	60	60	60	60
			への参画推進	機会をつくります。	3 241024 20#1	指標:フェイスブックでの発信回数(回)	79	62			
65				災害や感染症拡大等緊急時を含む、生活環境を守る協働体制を確	多文化共生課	外国人防災リーダーを育成します。(伊賀市地域活動支援事業_協働促進支援コースを活用)	2022	30	35	35	35
				立します。		指標:外国人防災リーダー研修受講者累計人数 (人)	14	31			
Н		基本施	E策 (3) 環境保全の基礎	となる平和尊重の推進	戦争・原子爆弾の悲惨さや平和の尊さを市ける「原養」人間」パネルを展示。展示語が 「和尊重の意識啓発を 人権政策要	戦争・原子爆弾の悲惨さや平和の尊さを市民へ周知					
66			施策1 戦争等による環境破壊を 許さない啓発事業	バネル展等により、環境保護の基礎となる平和尊重の意識啓発を 行います。		する「原爆と人間」パネルを展示。展示箇所の増を	2022	7	7	8	8
Н			回でなり合光手来			指標: 展示圏所数 (中庁吉(本庁・文所)・民间ヤヤラリー) (箇所)	7	7			
67				次代を担う若い世代が、核兵器の恐ろしさや平和の尊さを学ぶ事業として、伊賀市非核平和推進中学生広島派遣事業等を行います。	人権政策課	中学生を広島市に派遣し、平和記念式典への参列及 び原爆や戦争の悲惨な実態を学習します。	2022	15	15	15	15
Н				9 .		指標:参加人数(生徒・引率者)(人)	15	15			
68				様々な機会を通じた啓発により、平和な社会を脅かす差別や格差 を許さない人権文化の確立に努めます。	人権政策課	ひゅーまんフェスタにおいて、講演会や展示、体験 ブースを開設。非核平和推進広島派遣事業に参加し た中学生がその報告を行う。地域での講演会等を通	2022	200	230	260	300
$\Box$						じて非核平和の意識醸成を図ります。 指標:参加人数(一般・関係団体)(人)	175	210			

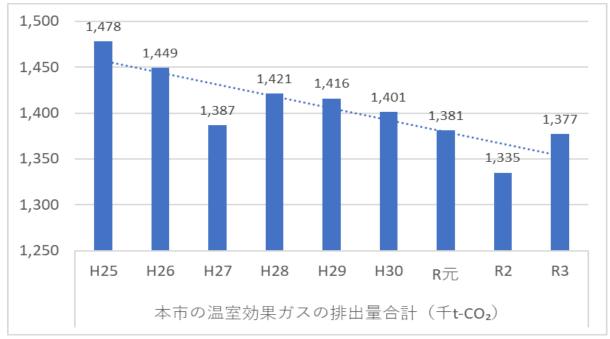
# 【基本目標6 環境教育】

施策			施策	各施策内容	担当所属等	中間達成目標 (事業及び数値指標の概要)	原状値	数值指	際(上段:目	標/下段:	実績)
No.	#-	<b>₽</b> □ 1		T ME ME TO TO	15 37/1 86 47	(2023~2026)	年度/実績	2023	2024	2025	2026
	基	平日1	<ul><li>標6 環境教育</li><li>環境教育・環境</li></ul>	学習の推進							
		基本放	直策 (1) 環境教育・環境	学習の充実							
69			施策 1 環境教育・環境学習の体 制づくりの推進	各学校において、学習指導要額に基づき、発達の段階に応じた 「環境教育に関する全体計画」を作成し、各教科や総合的な学習 の時間、特別活動などにおける環境に関する教育の充実を図りま す。	学校教育課	各教科や総合的な学習の時間、特別活動などにおいて、環境に関する授業を行います。 指標:各学校での年間の実施回数(回)	2022	2	2	3	3
70				「学校環境デー」として、毎年6月5日を基準日とし、各校で家庭・地域等と連携した取り組みを推進します。	学校教育課	「学校環境デー」において地域と連携した美化運動、環境整備作業等を実施します。 指標:各学校での年間の実施回数(回)	2022	1	1	2	2
71				「ノハナショウブの保護活動」や「菜の花プロジェクト」など、 地域や学校の実施・特性を生かした環境実化・環境保全活動に取 り組みます。	学校教育課	地域や学校の実態・特性を生かした環境美化・環境 保全活動に取り組む学校数の増加を図ります。 指標:実施学校数(校)	2022	3	5	7	10
72			施策 2 小中学生向け環境教育及 び大人向けの環境教育の 推進	市民講座や学習会等で、伊賀市環境センター及び伊賀市浄化セン ター「さらら」の職員による環境学習講座を開設します。	環境センター 浄化センター	排水セミナーを環境センター職員で行います。 指標:実施回数 (回)	2022	1	1	1	1
73			施策3 体験型環境教育の推進	自然観察会や野外実習等を通じた体験型の環境教育を行います。	生活環境課	環境保全市民会議と協力して、自然観察会を実施し ます。 指標:実施回数 (回)	2022	1	1	1	1
74				資源ごみの回収、ごみクリーン活動を通した体験型の環境学習を 行います。	さくらリサイクルセンター	ごみ処理工場ならではの施設環境を活かして、ごみ 処理業務・資源化業務をリアルタイムで見学し、処 理業務の実施を肌で感じ、ごみ問題を考えてもらえ る学習を行います。	2022	3	3	5	5
						指標:学習見学会の実施回数(回)	0	4			
75			施策 4 人材の育成と活用	市職員が率先して環境知識や意識向上を図るため「伊賀市EMS」 の取り組みを通して自覚研修等を推進します。	生活環境課	市職員が率先して環境知識や意識向上を行うことが 出来る環境を整備することで、自主的な研修の実施 を促進します。 指標:年度内の自覚研修のための教材提供数 (件)	2022	1	1	2	3
76				環境活動に携わっている人や有識者に講師を依頼するなど、積極 的に環境学習や研修等を行っていきます。	生活環境課	環境問題に関する専門家による環境学習研修を実施 することで、環境問題に関する知識を習得する機会 を設けます。	2022	1	2	2	2
				即に無現子自下明診守を行うしいさます。		指標: 年度内の環境学習研修 (環境セミナー等) の 開催件数 (件)	2	2			
77				本市の即を活用して、環境啓発に関する動画を発信していきます。	生活環境課	地球温暖化に伴う異常気象等の生活への影響につい て周知・啓発を行う事で、気候変動への適応を促進 します。 指標: 年度内の地球温暖化に伴う気候変動に係る講	2022	1	1	1	1
						演会等の動画の公開件数(件)	0	1	0	0	0
78				本市の環境政策を担う人材の育成を計画的に行っていきます。	生活環境課	庁内各課の環境管理推進員を中心に環境問題に関す る研修を行うことで、本市の環境政策を担う人材の 育成につなげます。 指標:年度内の研修会実施回数(回)	2022	0	1	1	1
79				「伊賀城和定住自立圏共生ビジョン」に基づき、幼少期から圏域 住民としての一体感を養うための交流を通して、エリアプライド	総合政策課	事業内容:圏域内の住民活動団体の取り組みを展示・情報発信し、住民間の交流を図る。圏域の将来	2022	2	3	4	5
19				(圏域の誇り・自尊心) の醸成に取り組みます。	松口以来除	を担う若者世代の交流を進めます。 指標:地域間交流の取組数(件)	1	3			
L		基本於	直策 (2) 環境保全活動へ	の参加の啓発							
80			施策 1 環境保全活動の体制づく りの推進	市民・市民団体・地域・事業者等による自主的な活動の活性化を 促進するため、助言や支援を行います。	住民自治推進課 各支所	各住民自治協議会に対し、自主的な活動の活性化を 促進するための情報提供を行います。 ・他団体等の取り組み事例等の情報収集 ・各任民自治協議会を訪問し、任民自治協議会のま	2022	78	78	78	78
				<b>実速するため、明音ヤス抜を行います。</b>	生活環境課	ちづくり計画における環境保全活動の進捗確認 ・他団体の取り組み事例等の情報提供 指標:情報提供回数×39自治協(回)	78	78			
81				市民・市民団体・地域・事業者・行政等が協力して環境保全活動 に取り組みやすい体制づくりを推進します。	住民自治推進課 各支所	各住民自治協議会に対し、行政と協力して環境保全 活動に取り組みやすい体制づくりを行います。 ・他団体等での取り組み事例等の情報収集 ・各住民自治協議会を訪問し、取り組み事例等の情	2022	78	78	78	78
				ロール・ハル・グトフザー門サントンで1億円 レネリ。	生活環境課	・ 合住氏自信協議会を訪問し、取り組み事例寺の情報提供、意見交換 指標: 訪問回数×39自治協(回)	78	78			
82				環境に係る新技術、先進事例、国等のエネルギー施策の最新動向 について積極的に情報収集・整理し、環境セミナー等を通じて、 市民・市民団体や地域及び事業者に情報発信します。	生活環境課	環境問題に関する専門家による環境学習研修を実施 することで、環境問題に関する知識を習得する機会 を設けます。 指標:年度内の環境学習研修(環境セミナー等)の	2022	1	2	2	2
			施策 2			開催件数(回)	2	2	0	0	0
83			<sup>爬来2</sup> 環境保全活動に対する意 識啓発	市民、市民団体、地域や事業者向けに出前講座を開催し、環境保 全活動に関する情報を提供することで、環境保全活動への意識の 向上を図ります。	生活環境課	出前講座を開催し、環境保全活動に関する情報を提供することで、環境保全活動への意識の向上を図ります。 指標:年度内の出前講座の実施件数(回)	2022	1	1	1	1
0.4				「伊賀城和定住自立圏共生ビジョン」に基づき、圏域内で連携 し、河川環境保全への意識の高揚・定着を図る啓発事業を行いま	60 A 动作 800	本津川及びその支流における河川美化活動及び啓発 事業を毎年継続的に事施する	2022	219	261	303	350
84				し、1971 乗児床上へい息盛い両摘・足者を図る合発事業を行います。	100 口 収 界 เ承	指標:河川美化活動及び啓発事業への参加者数 (人)	370	422			

# 第2章 資料編

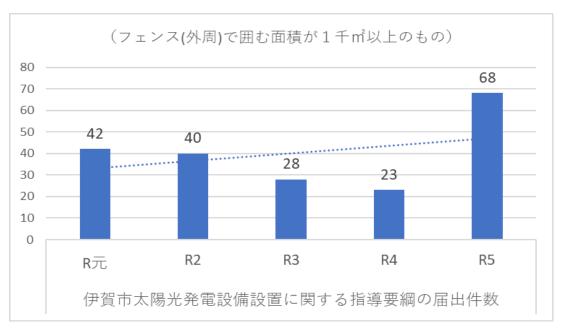
- ◎気候変動への対応等による地球環境の保全
  - 1 温室効果ガスの排出抑制
    - ・本市の温室効果ガスの排出量合計(千t-CO2)

部門·分野									
HITT 7525	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
<b>計</b>	1,478	1,449	1,387	1,421	1,416	1,401	1,381	1,335	1,37
産業部門	922	906	889	928	938	934	940	933	96
製造業	871	870	828	891	901	900	906	868	90
建設業·鉱業	7	6	5	5	5	5	4	5	
農林水産業	44	30	56	33	32	30	30	61	5
業務その他部門	169	175	143	139	131	135	121	102	110
家庭部門	163	146	137	141	137	125	116	116	112
運輸部門	224	221	217	212	209	206	203	183	182
自動車	216	214	210	205	203	200	197	178	17
旅客	111	108	106	105	104	102	99	87	8
貨物	105	106	104	101	99	99	98	91	9:
鉄道	7	7	7	7	6	6	6	5	
船舶	0	0	0	0	0	0	0	0	
廃棄物分野(一般廃棄物)	0.89	1	0.92	1	1	1	1	0.99	1



環境省:自治体排出量カルテより

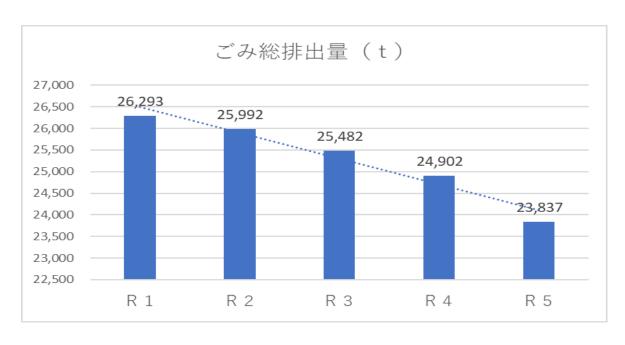
## 2 再生可能エネルギーの推進



建設管理課より

## ◎持続可能な資源循環の推進

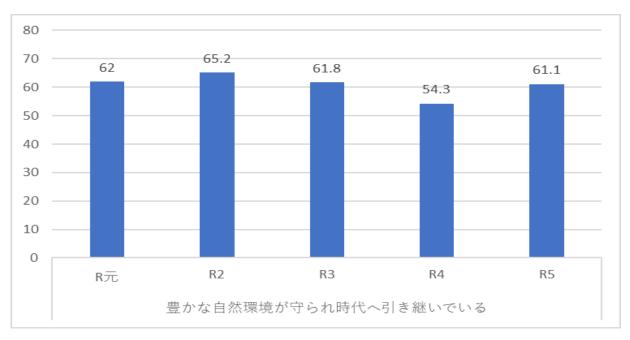
- 3 ごみの排出抑制
  - ・ごみの総排出量の推移(t/年)



一般廃棄物処理事業実態調査より

## ◎豊かな自然と生物多様性の保全

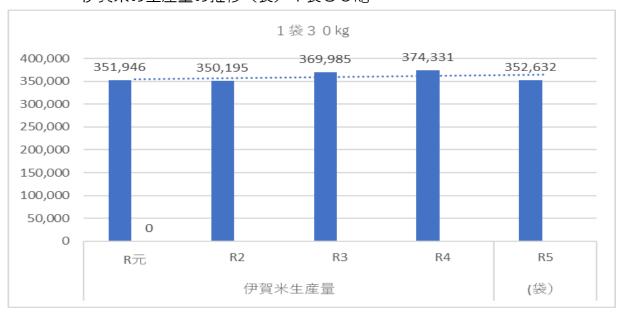
- 4 伊賀市まちづくりアンケート
  - ・満足度「豊かな自然環境が守られ時代へ引き継いでいる」(%)



伊賀市まちづくりアンケート結果報告書より

## 5 農地の保全

・伊賀米の生産量の推移(袋) 1袋30kg



令和6年度伊賀米振興協議会総会資料より

## ◎生活環境・・安心・安全に暮らせる生活環境の確保

6 河川水の環境基準達成率(市調査)

※別途、国、県等と連携し、河川水質管理を実施しています。

・調査地点8か所における達成地点数、達成率(%)

環境基準が設定されている流	可川の	)水質	調査約	吉果(E	30D7	5%値	<u>i</u> )/(	mg/L)	)	
年 度	20	19	20	20	20	21	20	22	20	23
<del>十</del>	(R	1)	(R	2)	(R	3)	(R	4)	(R	(5)
河川の環境基準達成率	100%	8/8	100%	8/8	87%	7/8	100%	8/8	100%	8/8

調査地点	河川名(類型)	2019 (達	(R1) 成)	2020 (達		2021 (達		2022 (達		2023 (達)	
大村橋	木津川(A)	0.5	(O)	0.7	(O)	0.6	(O)	0.6	(O)	0.8	(O)
笠部橋	木津川(A)	0.8	(O)	0.9	(O)	0.7	(O)	1.3	(O)	0.8	(O)
甲之木橋	久米川(B)	1.3	(O)	1.4	(O)	1.5	(O)	1.5	(O)	1.6	(O)
桑町橋	久米川(B)	2.5	(O)	2.0	(O)	1.9	(O)	3.0	(O)	3.0	(O)
上市場橋	柘植川(A)	0.6	(O)	1.1	(O)	1.9	(O)	0.6	(O)	0.6	(O)
佐那具橋	柘植川(A)	1.4	(O)	2.0	(O)	1.7	(O)	1.2	(O)	1.8	(O)
高橋	服部川(A)	0.9	(O)	1.1	(O)	0.8	(O)	0.6	(O)	<0.5	(O)
小田水源地付近	服部川(A)	0.8	(O)	1.1	(O)	2.5	(×)	1.3	(O)	0.9	(O)

※環境基準:A類型(BOD 2.0mg/L)、B類型(BOD 3.0mg/L)

※BOD75%値とは、年間のBOD値を低い方から並べたときのn×0.75番目(nは測定回数)の値であり、 環境基準の評価はこの値で行います。年4回測定の場合は低い方から3番目の値が75%値になります。

						年度			
	河川名			2019	2020	2021	2022	2023	1
調査地点	(類型)	項目(年平均)	単位	(R1)	(R2)	(R3)	(R4)	(R5)	環境基準
		水素イオン濃度	_	7.2	7.2	7.4	7.1	7.1	6.5以上 8.5以下
	ŀ	(pH) 浮遊物質量	_	1.2	1.2	7.4	7.1	7.1	8.5以下
大村橋	木津川	(SS)	mg/L	<1	<1	<1	<1	<1	25mg/L以下
7C1116	(A)	溶存酸素							
	-	(DO) 大腸菌群数	mg/L MPN/100ml	10.6	10.7	10.9	10.5 17000	10.6	7.5mg/L以上 1000以下
		(大腸菌数)	(CFU/100ml)	5,200	7,700	6,400	120	90	(300以下)
		水素イオン濃度							6.5以上
		(pH)	-	7.6	7.4	7.6	7.3	7.2	8.5以下
	木津川	浮遊物質量 (SS)	mg/L	1	1	2	1	1	25mg/L以下
笠部橋	(A)	溶存酸素	mg/ L	·				'	Zonig/ Log
		(DO)	mg/L	9.8	10.7	10.1	9.8	9.8	7.5mg/L以上
		大腸菌群数	MPN/100ml	0.500	0.000	0.000	11000	50	1000以下
		(大腸菌数) 水素イオン濃度	(CFU/100ml)	2,500	3,800	6,300	70	50	(300以下)
		が乗りる機反 (pH)	_	7.3	7.2	7.3	7.0	6.9	8.5以下
		浮遊物質量							
甲野木橋	久米川 (B)	(SS)	mg/L	2	2	2	1	1	25mg/L以下
	(6)	溶存酸素 (DO)	mg/L	9.6	10.3	10.0	9.3	9.5	5mg/L以上
		大腸菌群数	MPN/100ml				41000		5000以下
		(大腸菌数)	(CFU/100ml)	100,000	150,000	160,000	300	500	(1000以下)
		水素イオン濃度 (pH)	_	7.4	7.3	7.5	7.1	7.0	6.5以上 8.5以下
				7.4	7.5	7.5	7.1	7.0	0.522
桑町橋	久米川	(SS)	mg/L	2	3	2	3	3	25mg/L以下
X-1,100	(B)	溶存酸素							
		(DO) 大腸菌群数	mg/L MPN/100ml	9.6	10.0	9.7	9.4 42000	9.4	5mg/L以上 5000以下
		(大腸菌数)	(CFU/100ml)	45,000	57,000	59,000	410	1,000	(1000以下)
		水素イオン濃度							6.5以上
	ŀ	(pH)	-	7.7	7.8	7.7	7.4	7.2	8.5以下
	柘植川	浮遊物質量 (SS)	mg/L	1	<1	3	<1	<1	25mg/L以下
上市場橋	(A)	溶存酸素							<u> </u>
		(DO)	mg/L	9.9	9.7	9.7	10.0	9.8	7.5mg/L以上
		大腸菌群数 (大腸菌数)	MPN/100ml (CFU/100ml)	140,000	14,000	11,000	11000 20	150	(300以下)
		水素イオン濃度	(010/1001111)	140,000	14,000	11,000	20	100	6.5以上
		(pH)	-	7.6	7.7	7.6	7.4	7.2	8.5以下
	+7 +3 111	浮遊物質量	//						05 (11)
佐那具橋	柘植川 (A)	(SS) 溶存酸素	mg/L	3	1	2	2	2	25mg/L以下
		/音行政系 (DO)	mg/L	9.8	10.1	10.2	9.8	10.0	7.5mg/L以上
		大腸菌群数	MPN/100ml				11000		1000以下
		(大腸菌数)	(CFU/100ml)	34,000	18,000	14,000	40	190	(300以下)
		水素イオン濃度 (pH)	_	7.4	7.4	7.5	7.3	7.1	6.5以上 8.5以下
		浮遊物質量							
髙橋	服部川	(SS)	mg/L	<1	1	<1	<1	<1	25mg/L以下
	(A)	溶存酸素 (DO)	mg/L	10.3	10.3	10.7	10.7	10.6	7.5mg/L以上
	ŀ	大腸菌群数	MPN/100ml	10.0	10.0	10.7	43000	10.0	1000以下
		(大腸菌数)	(CFU/100ml)	24000	6900	23000	220	140	(300以下)
		水素イオン濃度		7.	7.	7.	7.0	7.0	6.5以上
	ŀ	<sub>(pH)</sub> 浮遊物質量	_	7.5	7.6	7.4	7.2	7.0	8.5以下
小田 水源地	服部川	序班初貝里 (SS)	mg/L	2	2	3	3	2	25mg/L以下
水源地 付近	(A)	溶存酸素							
		(DO)	mg/L	10.2	10.3	10.2	9.8	10.1	7.5mg/L以上
1	ľ	大腸菌群数	MPN/100ml				11000		1000以下

<sup>※</sup>大腸菌群数(大腸菌数)は、測定項目が2022(R4)年10月以降は大腸菌数に変更になりました。2022(R4)年度は大腸菌群数の平均値(4月、7月測定)、大腸菌数の平均値(10月、1月測定)を示します。

## 7 事業所等への指導・監視の強化

・騒音に係る監視・測定結果(地域別)

環境騒音	音測定結果 暦3	年			市内で	環境基	準が設	定され	ている	地域内	の公共	施設で	環境騒	音を測
環境基	用途地域	測定地点	基準	集値	R	R1	R	22	F	13	F	R4	R	35
準類型	一	烈足地無	昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜
А	第一種中高層	津地方検察	55	45	48	37	48	38	42	40	43	39	45	40
	住居専用地域	庁伊賀支部	33	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
В	第一種住居地	上野西部地区市民セン	55	45	45	43	55	35	53	35	47	36	48	39
	域	ター	55	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
С	近隣商業地域	三重県伊賀	60	50	48	43	44	39	50	46	46	45	47	45
	<b>近</b> 隣的未地域	庁舎	00	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			数字は	等価騒	音レベ	:ル (dl	B)							
			基準に	適合で	,O									
			昼:6	時~22	诗 夜	: 22時	~6時							

伊賀市環境センターより

# ・騒音に係る監視・測定結果(全体・路線別)

全体の評価結果						
				R1~R5分		
	対象戸数	環境基	準達成率	(%)		
	7.13亿户.致	昼	夜	昼夜		
全戸数	2812	99.8	99.7	99.6		
近接空間	1159	99.6	99.4	99.2		
非近接空間	1653	99.9	99.9	99.8		
※近接空間						
2 車線以下の	車線を有す	る幹線交通	を担う道路	各: 15メ-	ートル	
2車線を超え	る車線を有	する幹線交	通を担う道	直路:20)	メートル	

自車動騒音常時監視(面的評価)について

面的評価とは幹線道路に面した地域(道路端から50mの範囲)において、個々の建物ごとの騒音レベルを推計し、環境基準 を超過する住居等の戸数の割合を算出する道路交通騒音の評価方法です。

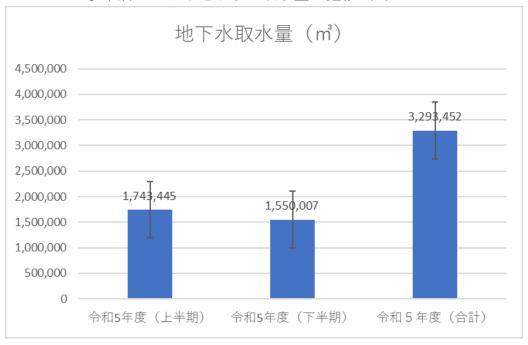
評価の対象は住居、学校、病院等となっており、工場・事業所等の非住居は対象外です。

路線別の評価結果									
対象路線	車線数	評価区間延長(km)			対象戸数	環境基準達成率(%)			年度
		延長	起点	終点	入13K/广数	昼	夜	昼夜	十尺
一般国道25号	4	1.1	四十九町	守田町	62	100.0	100.0	100.0	R1
一般国道422号	2	4.9	音羽	小田町	324	100.0	100.0	100.0	R1
県道高倉佐那具線	2	5.3	西高倉	外山	165	100.0	100.0	100.0	R1
一般国道163号	2	9.5	小田町	平田	330	100.0	100.0	100.0	R2
県道信楽上野線	2	3.1	小田町	千歳	103	97.1	91.3	91.3	R2
一般国道25号	2	2.4	上野農人町	八幡町	301	97.7	99.3	97.7	R3
一般国道368号	2	10.0	八幡町	安場	139	99.3	100.0	99.3	R3
一般国道422号	2	13.2	八幡町	青山羽根	657	100.0	100.0	100.0	R4
県道上野大山田線	2	12.7	喰代	上野恵美須町	730	100.0	100.0	100.0	R5

伊賀市環境センターより

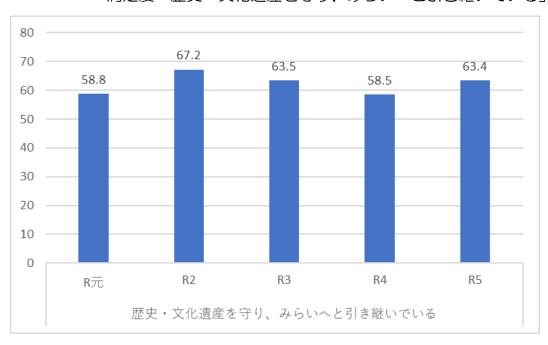
#### 8 健全な水循環の維持

・事業所における地下水の取水量の推移(㎡)



地下水採取報告集計表より

- ◎文化環境・・歴史・文化をくらしに活かす文化環境の確保
  - 9 伊賀市まちづくりアンケート
    - ・満足度「歴史・文化遺産を守り、みらいへと引き継いでいる」(%)



伊賀市まちづくりアンケート結果報告書より